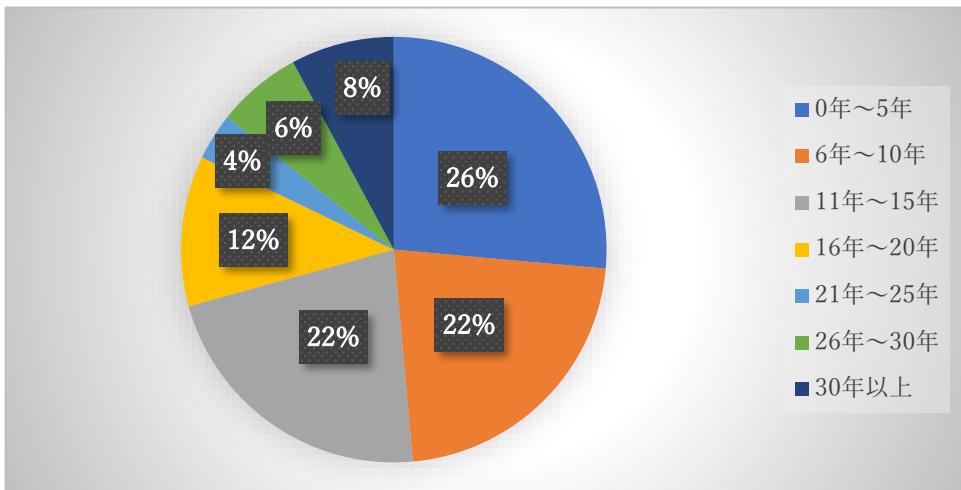


令和6（2024）年度 大阪市立中学校研究会英語部
小中連携・接続 1年生担当教員へのアンケート結果

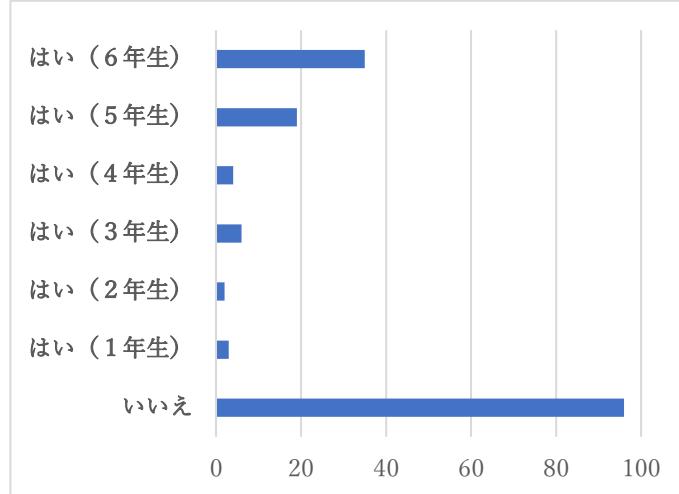
1 実施期間 令和6年6月下旬～令和6年7月末日（有効回答者数140人）

2 教職歴



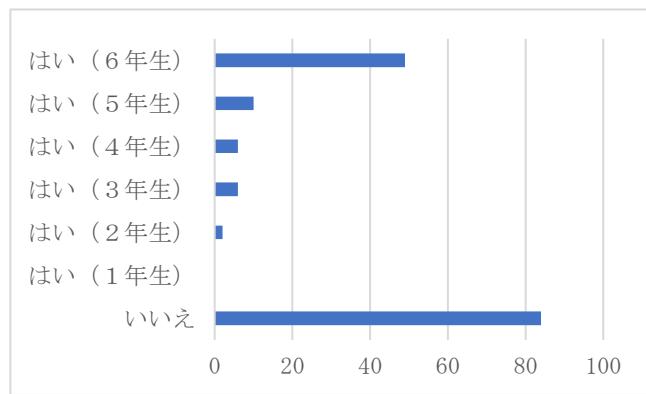
3 校区小学校の外国語活動・外国語の授業を見学されたことがありますか
(複数回答可) (数字は人数)

いいえ	96
はい（1年生）	3
はい（2年生）	2
はい（3年生）	6
はい（4年生）	4
はい（5年生）	19
はい（6年生）	35

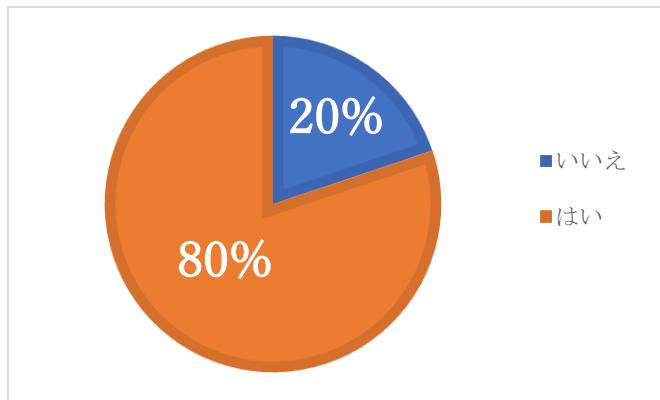


4 出前授業などを含め、校区小学校で授業をされたことがありますか（複数回答可）
(数字は人数)

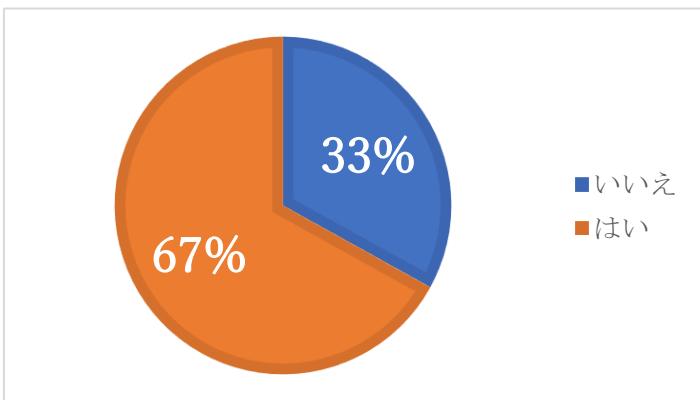
- ・いいえ 84
- ・はい（1年生）0
- ・はい（2年生）2
- ・はい（3年生）6
- ・はい（4年生）8
- ・はい（5年生）10
- ・はい（6年生）49



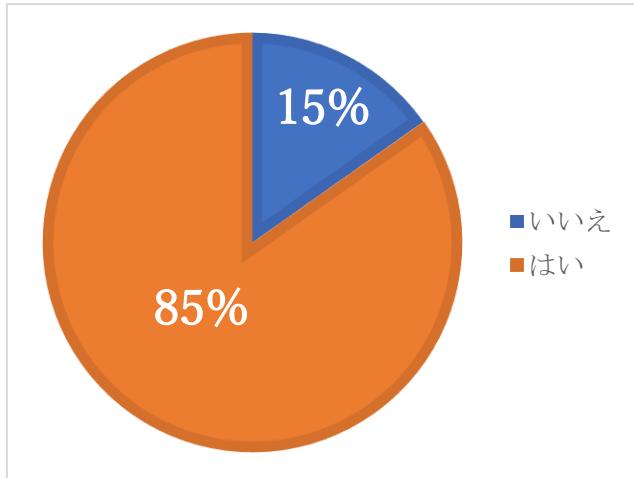
5 小学校の教科書および補助教材を手にとってみられたことがありますか



6 現1年生が小学校で学習した内容をご存じですか。



7 中学校英語への導入には十分時間をかけておられますか



8 質問6の回答の理由をお教えください。(回答者数 103人(抜粋))

○「はい」の回答で小学校の内容を知る手段として多かったのは以下の5つであった。

- ・小学校で教えた経験がある
- ・今教えている
- ・同僚が教えている
- ・入学してきた生徒から聞いている
- ・C-NETを通じて知ることができる

○理由としては以下の回答があった。

- ・中学校での授業を円滑に行うため、中学校での授業の導入においてできるだけ小学校で学習した内容を活用して、授業を行いたかったため。
- ・小学校の内容と中学校の内容は全て繋がっているから、知っておく必要があると思ったから。
- ・英語の導入、アルファベットにどれだけ時間をかけるか決定するため。
- ・授業内で用いる表現や単語を把握するため。
- ・最初がわからないと、3年間わからなくなるため。
- ・あいさつなどの表現や簡単な問答は話すことができるが、既習単語であっても書くことができないため。

○取組みの内容としては以下の回答があった。

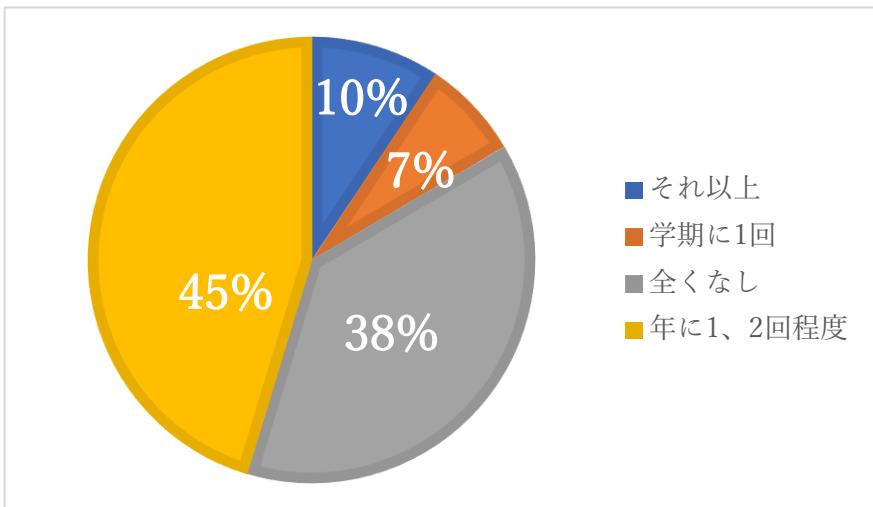
- ・単語の復習やフォニックスを5月上旬頃まで中心的に、その後も定期的に文法と単語の復習をした上で、中学校の内容に入っている。
- ・「英語を書く」という点においては、小学校より難易度が高いものになっていると思うので、最初の段階で大きな壁を感じないように、丁寧に理解度を確認しながら授業を進めている。

○「いいえ」の回答の理由としては、以下の5つの回答であった。

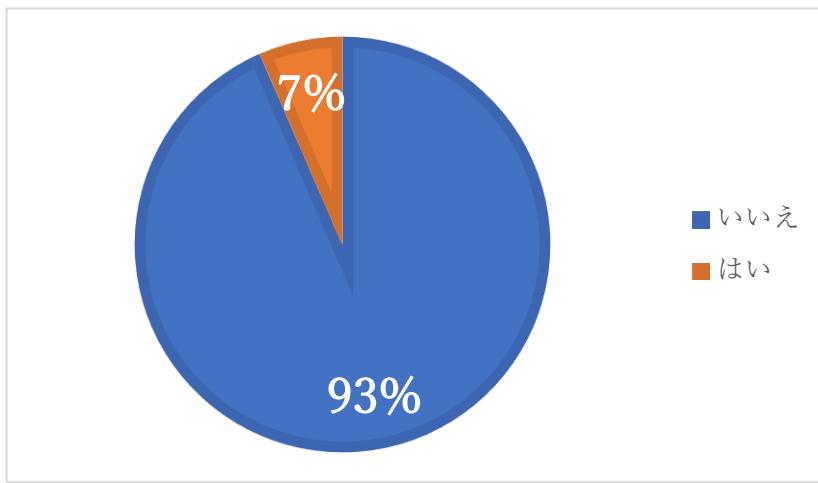
- ・今年度1年の担当となり、かなり小学校時点で英語に触れ、学んでいることがわかつたので、これまでよりも少なくした。
- ・小学校で既習の内容の確認まで手が回っていないから。

- ・小学校では対話的なことが中心で、結局中学校に入ってから一から学ぶような感じなので、あまり深い意味はないかなと感じたから。
- ・各小学校によって取り組み内容が異なっているため、全小学校の把握ができていないため。
- ・チャレンジテストの範囲がおわらないため。

9 校区小学校の外国語活動・外国語について情報交換をどのくらいされていますか



10 校区小学校の外国語活動・外国語において連続した指導計画を作成されていますか



11 小学校で外国語活動・外国語が始まり、授業の中で以前と違うと感じられるることは何ですか。

(複数回答可) (数字は人数)

- ・アルファベットが読めるようになっている。72
- ・個人差が広がっている。68
- ・小学校によって差がでてきている。55
- ・アルファベットが書けるようになっている。54
- ・担任（もしくは担当）の先生によって差がでてきている。40
- ・話すことの語彙が豊富になっている。22

- ・文字と発音の関係がわかり、ある程度単語が読める。22
- ・学習への興味関心が高くなっている。21
- ・文字学習に対する抵抗感が強くなっている。21
- ・文字学習に対する抵抗感が弱くなっている。11
- ・単語が書けるようになっている。9
- ・その他。9
- ・文章が読めるようになっている。8
- ・文章が書けるようになっている。4

12 質問11で、「その他」を選んだ方は具体的にお書きください。(回答者数9名(抜粋))

- ・音声に慣れ親しんでいるため、小学校の復習範囲である単元の導入がスムーズである。
- ・スペリングを覚えようとする意識が低くなっている。
- ・英語が嫌いになって入学してくる生徒が増えた。
- ・書く指導が不十分すぎて、結局アルファベットの書き方をイチからやらなければならぬので、そこはどうにかしてほしい。
- ・学年・学級全体の落ち着きや学習規律等がしっかりしていることが学力の差につながっていると思われる。
- ・できる子もいるが、苦手意識を持っている子が増えた。

13 小学校の外国語活動・外国語で培って欲しいことは何でしょうか。(複数回答可)(数字は人数)

- ・アルファベットが書けるようになること。96
- ・英語への興味・関心。76
- ・アルファベットが読めるようになること。74
- ・文字と発音の関係。57
- ・英語を聞いたときにおおまかな内容理解ができること。54
- ・単語が書けるようになること。50
- ・単語が読めるようになること。47
- ・英語での指示が理解できること。41
- ・英語で話すこと(やり取り)の力。32
- ・正しい発音。31
- ・英語で話すこと(発表)の力。22
- ・文章が書けるようになること。22
- ・文章が読めるようになること。20
- ・話すことの語彙。19
- ・その他。7

14 質問13で、「その他」を選んだ方は具体的にお書きください。(回答者数7人(抜粋))

- ・ローマ字の指導が小学校国語の訓令式で入ってくるので、小学校も英語の学習が始まったのだからへ

ポン式にして欲しい

- ・小学校でやっていた歌を通じて、月や曜日がしっかり子供にはいっているので、そのまま歌やチャンツを重点的にやってほしいです。
- ・英語の4技能を指導していく中で、疎かにしても良いというものは1つもない。そもそも勉強をすることが苦手な生徒がいる中で、4技能を意識して指導を行っている。小学生でも4技能を意識した取り組みをもっと行うべきである。小学生で漢字を練習する際は、「なぞる、そのままか書く、熟語としての使い方、その漢字を使っての文章を書く」となるのが基本だが、英語の授業において「書く」という分野があまりにも少なすぎる。しかも、中学1年に上がった時には、小学生で触れたものは「学習済み」という扱いをされており、新出単語として扱われていないため、単語の指導がより大変になっている。小学校の先生も中学ではもうこの単語について教えないということをわかって指導をしているのかが疑問である。本校は中学校の先生が6年生を指導しているので、ある程度はカバーできているが、基本的には書くテストをしてはいけないと聞いている。そのため、声掛けのみになることが多く定着するには程遠い。どこまで指導してよいのかもわからず、アルファベットを完璧に書くというところで留まっている。誰に聞いてもあまり書かすことより、英語に触れることが重視だと聞いているが、そのため個人差が大きくなり生徒が混乱をしていると感じる。
- ・フォニックスを小学校で取り組んでほしい。フォニックスこそ小学校でやるべきだと思う。年々スペルミスをする生徒が増加傾向にあるのはフォニックスを知らないことが大きい。
- ・嫌いにはならないよう配慮いただきたい。

15 小中接続、連携などで取り組んでおられること、あるいは悩んでおられることがあればお書きください。(回答者数42人(抜粋))

取組み

- ・6年生に来てもらって、中学校の授業を実際に体験してもらっている。
- ・年に1度、校区内の小学校に対して中学校での英語の授業の様子や雰囲気などを掴んでもらうために出前授業を行っている。
- ・授業内容や形態は毎年の小中連携で会議をして9年間を見通した指導ができるように話し合いを密にしています。
- ・今後小学校へ授業見学に行く予定です。
- ・中学校教員が6年生に授業を体験させることを秋に開催しています。
- ・小中一貫校なので、5、6年生の授業に中学校の英語教員が入り込みをしています。そのため、英語に取り組む姿勢等を先に見ることができます。
- ・C-NETを介した情報交換
- ・小中一貫校に勤務しておりますので、連携という意味ではスムーズかと思います。
- ・相互授業参観、中学校授業体験
- ・2年前から年に1回2月初旬から中旬にかけて校区4小学校の6年生のクラスと中学校2年生のクラスとをTeamsを利用して英語の授業でつないでいます。スクリーンやモニターの前にて一对一で対話をします。まず小学生が質問して中学生が答え、次に中学生が質問して小学生が答えます。即興的な対話となります。小学生は入学前の不安な時期に中学生活について尋ねることができます。中学生は自分の部

活動の PR をすることもできます。それぞれが英語を駆使して対話をするので自信にもつながります。授業後のアンケートでは肯定的な回答が 9 割を超えていました。今年度も実施予定です。

悩みなど

- ・小学校で学んできたとはいえ、教科書はアルファベットから始まっている。どこから中学校で扱うべきなのか？個人差があるので、それを埋めるために最初から丁寧にすべきだと思うが、英語の実力が高い子からしたらつまらない学習になっていると思う。この差をどのように埋めるべきなのか？
- ・小学校では「聞くこと」「話すこと」を中心に行っているにも関わらず、中学校の教科書では小学校で習った英単語を既習単語として扱っているため、改めて授業で取り上げる暇がなく、中学校から学ぶ膨大な英単語数に子どもたちがついていけない。『書くこと』への定着の時間が取れないこと。
- ・小学校外国語活動が始まってから、中学校入学時から英語に対して嫌悪感や苦手意識を持っている生徒が多く見受けられ、一方で大きなアドバンテージを持って入学してくる生徒もいるため、格差が大きく、授業し辛いことがある。
- ・C-NET の先生の授業により共有がある程度出来ているので、必要性が希薄化しているのが事実です。
- ・どの教科でも同じかと思いますが、二極化が進んでいると思います。学校外で英語を個人的に学んでいる生徒も多いので、それらの生徒たちにも興味関心を途切れさせないように、また苦手とする生徒たちにも、意欲的に学び続けられるように、授業を模索しています。
- ・現在小学校を行っています。小学校の現状を見れる良い機会だとは思いますが、教員にとっての負担は大きいとも思います。中学校の業務を抱えつつ、小学校の教材研究となると、負担が大きいと感じています。
- ・年々生徒の日本語の力の低下を心配します。正しいひらがな、カタカナもかけません。英語の前にすべき事があるのではありませんか？
- ・今の形の小中連携なら、これからも実りは薄いだろう。小学校の事情がわかつたり指導計画をたてたりしたところで、英語の学力があがるわけではない。今はただ単に小学校と中学校の教員に新しい仕事が増えて負担になっているだけである。きちんと小学生の発達段階を理解した、英語の専科の講師なり教員を小学校に配置するべきである。せっかくすばらしい教科書があるのだから、まずはそれをきちんと教えてくれればよい。きちんと小学校の教科書を教えられる先生を配置するべきである。どの教科もそれは同じ。英語だけ特別というわけではない。
- ・連携の前にまず、各年代で学ぶべきことをきちんと学べる環境を作ること。学ばせること。そこからが連携のスタートと思う。
- ・学校や教諭により学習に差がある為、中学校の授業の定着にも差が出てきてしまっていると感じる。

その他

- ・英語が分かって中学校に来てくれる所以いいことかと思います。少しでも中学校で苦手意識がつかないように創意工夫（中学校側）が必要です。

まとめ

2021 年度にも「小中接続・連携に関するアンケート」を中学校 1 年生担当の教員に対してとった。アンケートの返答は 74 人からであった。今回の Forms を利用しての形式ではなく、Skip のメールや、通送便での返答の回収であったので今回のほうが返答しやすかったのかもしれないが、3 年前の 2 倍近い 140 人からの返答をいただいた。より信頼性が高い結果となった。小学校外国語活動・外国語への中学校教員の関心が高くなっているとも推察される。

アンケート結果からであるが、「現 1 年生が小学校で学習した内容をどのように知ることができるか」の質問については「入学してきた生徒から」「小学校で教えている、教えてた経験がある、現在教えている同僚から」「C-NET から」「小学校の教科書・教材から」が上位を占めている。一方で小学校の教員からという回答は低い。双方ともなかなか時間が取れていないという実態が浮かびあがった。アンケート全体を通して言えることは、小学校での外国語活動・外国語の導入後、音声面（聞く・話す）の英語力は確かに伸びているが、その一方で小学校の授業で書くことに費やす時間が少ないと、小学校で学習した語彙が中学校では既習となっているが、書くことはできないことへの悩みが挙げられている。英語への苦手意識を持つ児童の増加と学力の二極化も指摘されている。小学校の外国語活動（3、4 年生）の授業は週あたり 1 時間、外国語は週あたり 2 時間である。文字を使っての書く指導は 5 年生から本格的に始まる。4 技能 5 領域とは言え、外国語学習においては文章を作成するときは基本文をなぞり、自分の表現したい単語は教科書などを見ながら書き写す程度にとどまっている。依然として「聞く」「話す」が占める割合が高い。アンケートの回答の 1 つにもあったが、中学校 1 年生での導入の段階において小学校で培った音声面での強みを生かしながら、少しでも中学校で苦手意識がつかないように創意工夫を続けていく必要がある。小学校では 1、2 年生の算数や、国語の授業に担任外の教員が余裕のある空き時間を利用して入り込みをしたりしている。（小学校では担任の 1 日平均の空き時間は 1 時間程度。）導入段階のつまずきを少しでも減らすことが狙いである。アンケートの回答の 1 つに英語科教員を増やしてほしいというのがあったが、中学校においても 1 年生の 1 学期の導入の段階だけでも複数教員によってていねいに生徒を見ることができれば、「中一ギャップ」解消の助けとなっていくと考えられる。

最後に、アンケートを通して先生方の日々のたゆまぬ努力と苦労の様子がうかがえた。当研究会においてもこのアンケート調査を踏まえ、教員の負担を増やすことなく、小中接続・連携を少しでもより効果的にスムーズに進めていく手立てを考えていきたい。校務多忙な中でのアンケートにご協力いただきありがとうございました。

（文責 大阪市立桃谷中学校 我妻 夏）